

2022 年地区大会 実施報告書			
報告者	浜松第 1 団 植田 明子		
プログラム No.	ビーバー	プログラム名	スイスイよっこらしょ！ビーバーだいくはちからもち！
資料添付のお願い： 最終的な企画書、関連資料(ファイル)を今後の参考 情報共有のため、添付してください。			
実施報告	<p>実施報告(当日実施したプログラム内容の要約)</p> <p>&lt;想定&gt; 枝を抱えて水辺を歩き、ビーバーダム作りのお手伝いをする。</p> <p><u>コースに設定したもの(ポイント)</u></p> <p>①水たまりの中の本橋。 ②池の中のシーソー。 (ボタン!と大きな音を立てると、池の中から恐ろしい生き物が出て来る。)</p> <p>③滝。 ④滝つぼの中に連続切り株。(滝つぼは深いから落ちると大変。) ⑤蜘蛛の巣。(小蜘蛛を触ったり、鈴の音を鳴らしてしまうと蜘蛛が出て来る。)</p> <p>※追跡サイン(ビーバーイラスト)を追いかけてながら前進する。</p> <p>導入(ビーバーの説明含む)、ゲームの説明、ポイントの一部をボーイスカウト、ベンチャースカウトが担当。 保護者は、ポイントの一部、ゴールでの体調確認、労りの声掛けや団体体験会へのいざないを担当。 指導者は、主に安全担当と緊急時対応。</p>		
評価・反省	<p>評価・反省</p> <p>&lt;評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枝を触ることで手が汚れることを嫌がっていた参加者も、頑張ってチャレンジしていた。</li> <li>・現時点で、団に体験のお子さんが数人参加しに来てくれている。</li> <li>・ラリーカードの裏にビーバーがいることを教えてくれた参加者が何人かいたので、どうか説明できるチャンスがあった。</li> </ul> <p>&lt;反省&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日、参加者に関わる部分をスカウトと保護者が担当してくれ、とても親しみやすく柔らかい空気が満ちていて、「前に出るのは、スカウトと平成のお父さんお母さん」は大成功だった。</li> <li>・スカウト達も責任持って役割を果たした。スカウトの新しい魅力を発見した。</li> <li>・手旗やロープ、追跡サインなど、参加者にもスタッフにも、スカウティングのいい香りもたくさん嗅いでいただいたと思う。</li> <li>・スタッフ全員の安全意識を高め共有したことで、怪我も事故も無く良かった。</li> <li>・繰り返し遊びに来てくれた参加者やビーバー・カブスカウトがいた。</li> <li>・各指導者は他のブースを見学することも大切だったと思う。</li> <li>・ボーイスカウトの活動の計画に 想定 は必須。</li> <li>・団が一枚岩になる大きなチャンスとなった。</li> <li>・午後、参加者がいない空いている時間に、他の団のスカウト(ボーイ)が遊びに来てくれ、楽しそうに遊んでいた。(コースを体験してくれた。)</li> <li>・両団の了解の元、友団のスカウトがポイントの手伝いに来てくれ、上手に担当してくれた。</li> </ul>		